

“三国ヶ丘から世界へ”

高校 14 回生（昭和 37 年卒） 増原 宏

私は文系家族の中で育ったが、三国の小西先生の刺激的な化学の授業に触発され、東北大学理学部化学科に進んだ。仙台で光化学の研究室を選び、当時新しかったレーザーを使う化学者としてデビューした。レーザー光化学の研究に打ち込み、欧米を駆け回り、フランスの高等師範大学から名誉学位をもらい、ベルギーでは王立学士院の外国人フェローにいただいた。光化学のノーベル賞ともいわれるポーターメダルも紫綬褒章もいただくことができた。アジア光化学協会設立、初代会長を務めるなどアジアのためにも努力し、インドでは国立科学アカデミーの外国人会員に任命された。阪大工学研究科の教授を務めた後、台湾の国立交通大學で第一線の研究室を主宰しており、終身講座教授と言うポストを最近いただくことになった。三国卒業後 52 年、サイエンスを通して世界中に友人を持ち、ベルギー、インド、台湾を第二の故国とするまでに至った幸せに感謝している。